

2. 愛知県美術館研究紀要の過去の傾向と特色

1. 内容の分布

・所蔵品寄託作品研究

所蔵品（所蔵作品および所蔵資料）・寄託作品を調査・研究したもの

- ・研究紀要のみの場合 17本（43%）
- ・木村紀要・報告書を加えた場合 36本（50%）

・企画展関係・その他

その他美術史関係のもの（将来企画展に発展する可能性があるため、企画展関係と明確な区別は作らない）

- ・研究紀要のみの場合 15本（39%）
- ・木村紀要・報告書を加えた場合 15本（21%）

・館活動

教育普及・広報・管理・アートドキュメンテーション・保存など、美術史以外の調査研究活動に関するもの

- ・研究紀要のみの場合 7本（18%）
- ・木村紀要・報告書を加えた場合 15本（21%）

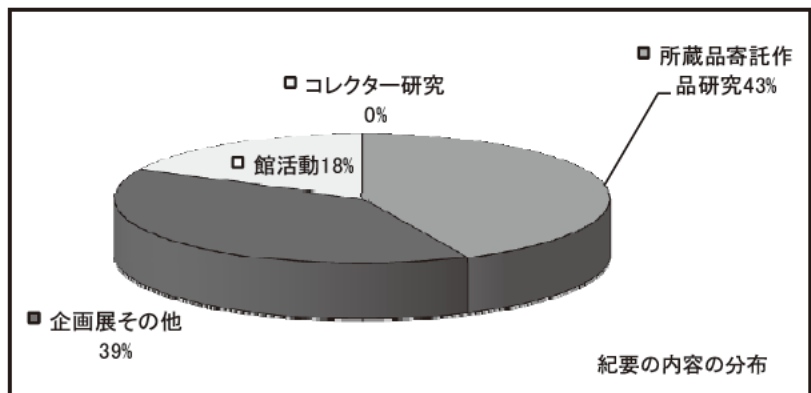
・コレクター研究

コレクター研究に関するもの

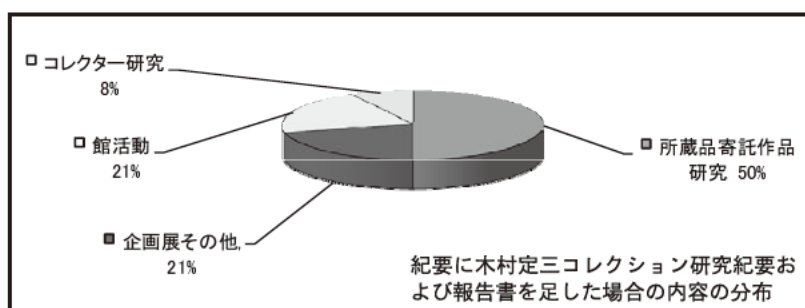
- ・研究紀要のみの場合 0本（0%）
- ・木村紀要・報告書を加えた場合 6本（8%）

・合計（序文を除く）

- ・研究紀要のみの場合 39本
- ・木村紀要・報告書を加えた場合 72本



* 当館が開館以来発表してきた研究紀要については、所蔵品寄託作品の研究をはじめ、美術史に関する論文や報告文が多いのはいうまでもないが、美術館教育、管理、アートドキュメンテーション、保存など、美術館としての機能に関する論文や実践報告が、比較的多くの割合を占めることが特徴である。



2、分類の分布

・論文

ここでは、下記のカテゴリーに含まれないものをすべて論文として、データ分析を行った。

・研究紀要のみの場合	27本 (69%)
・木村紀要・報告書のみの場合	11本 (34%)
・全 体	38本 (52%)

・報告文

筆者により「研究ノート」「資料紹介」とされたものや、実践記録など

・研究紀要のみの場合	12本 (31%)
・木村紀要・報告書のみの場合	5本 (15%)
・全 体	17本 (24%)

・資料

目録、分析データ、保存処置記録など

・研究紀要のみの場合	0本 (0%)
・木村紀要・報告書のみの場合	17本 (51%)
・全 体	17本 (24%)

・合計（序文を除く）

・研究紀要のみの場合	39本
・木村紀要・報告書のみの場合	33本
・全 体	72本

* 愛知県美術館の研究紀要は、論文と報告文のみで刊行してきた。それに対し木村定三コレクションは資料の割合が多い。これはほとんど全貌が知られてこなかった木村定三コレクションについて、様々な情報を外部の研究者とも共有できるようにすることが目的である。今後は木村定三コレクションに限らず所蔵作品に関しても、本篇にも資料編を設け、様々な作品の資料、データの公開に努めてゆく。

3. 愛知県美術館研究紀要・木村定三コレクション研究紀要・木村定三コレクション研究報告書



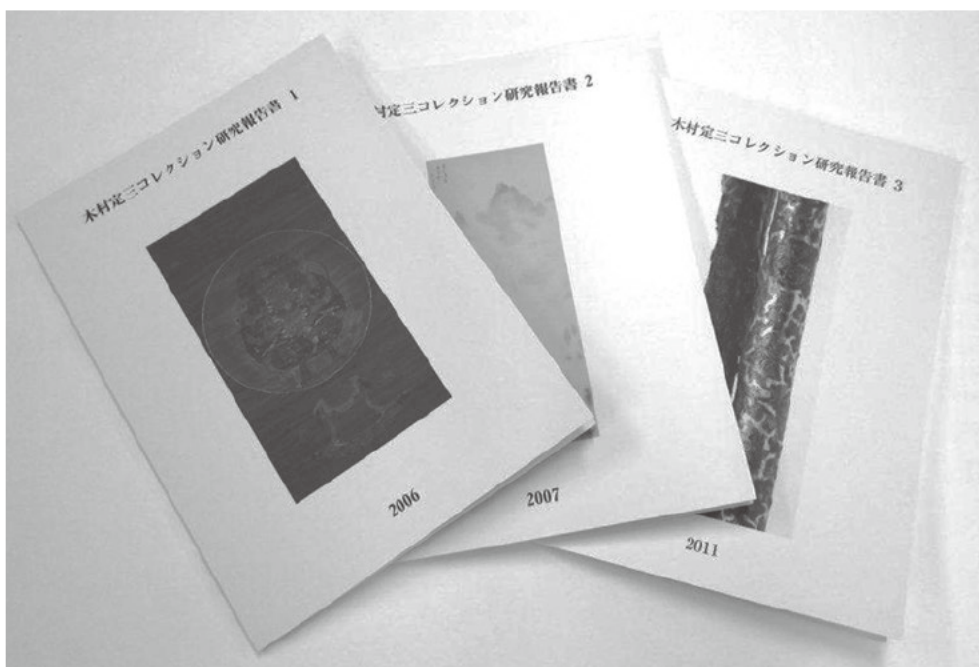
愛知県美術館の研究紀要 第1号から18号

開館の翌年に創刊され、毎年、2から3人の学芸員が、日頃の調査研究や実践の成果として論文や実践記録を発表した。

第12号（2005（平成17）年）、第13号（2006（平成18）年）は、館の年報との合本である。



木村定三コレクション研究紀要 2008年版から2011年版 4冊
 (その年の木村定三コレクションの調査研究成果を報告する事を目的とした定期刊行物として創刊した)



木村定三コレクション研究報告書 第1号から第3号
 (1号：コレクションの受贈、2号：コレクター研究の基礎資料、3号：作品の調査研究と、各号テーマが設定され、各々の内容を報告することを目的とした不定期刊行物)